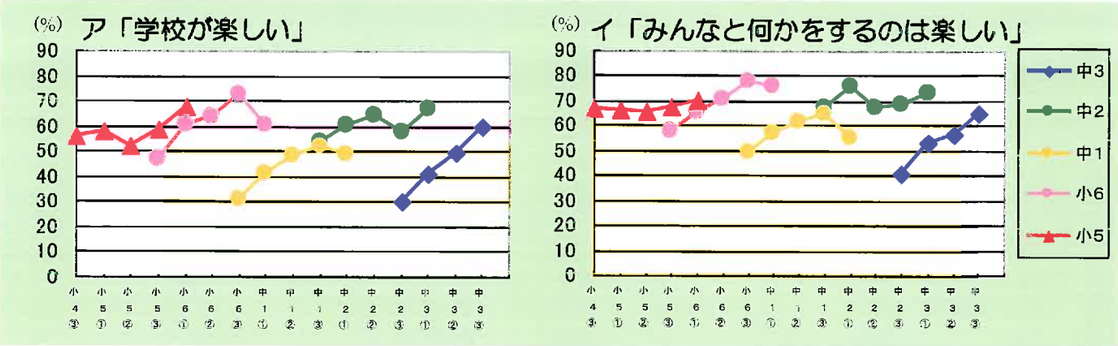
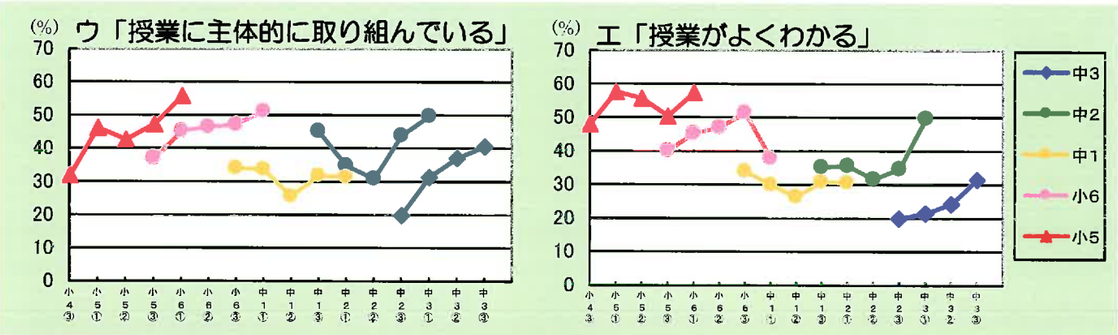
意識調査の数値の変化

・対象学年：小学５年生～中学３年生までの５学年
・調査時期：年３回（①７月、②１２月、③３月）
・項　　目：８項目（ア～エ：学校生活や授業に関わる項目、オ～ク：いじめに関わる項目）
・選 択 肢：次の４段階のうち、一番近いものを自己選択する。

１ 当てはまる	２ どちらかというと当てはまる
３ どちらかというと当てはまらない	４ 当てはまらない

※下のグラフは、４段階のうち、１「当てはまる」を選択した児童生徒の割合を示している。
（グラフ右側の凡例に示した学年は、平成２６年度のもの）
※日新中学校区では特に下のア～エを重視し、この４項目について上記の１～４を選択した理由を書かせ、ＰＤＣＡサイクルに生かした。





成果と課題

○意識調査の分析をもとに、ＰＤＣＡサイクルで見直しや改善を図って実践することができた。
特に、児童生徒の実態と共に回答の理由を分析したことで、指導方法を客観的に見直すことができた。また、学級や学年全体の意識の傾向を正確につかむことができ、その後の手立てを考えるために大きく役立った。

○小・小連携、小・中連携を図ることで、児童生徒が自信をもって活動できるようになった。
定期的に連絡協議会をもち、各校の実情やよさを理解し合い、同じ考え方で児童生徒を育てていこうとする意識が高まった。その結果、５校の小学校の児童が自信をもって日新中学校へ入学し、安心して学習や生活に臨むことができるようになった。

○事業後の実践の継続と改善、そして海津市全体への拡大を図っていく。
次年度以降も、これまでの実践に継続して取り組んで行くことが大切である。また、この実践のよさを海津市全体へ広げていけるよう、さらなる改善を図っていきたい。

平成２６・２７年度　国立教育政策研究所指定　『魅力ある学校づくり調査研究事業』
平成２６・２７年度　岐阜県教育委員会指定　『生徒指導総合連携推進事業』

すべての児童生徒の「心の居場所」と「絆づくりの場」となる 魅力ある学校づくり

岐阜県海津市 日新中学校区　公表会　平成 27 年 10 月 20 日（火）

海津市立高須小学校

学級数：　１５（特支３）
児童数：３５８名
岐阜県海津市海津町高須町３３７
TEL：０５８４（５３）００５９
FAX：０５８４（５３）０３９９

海津市立日新中学校

学級数：　１２（特支２）
生徒数：３６１名
岐阜県海津市海津町高須５３１－１
TEL：０５８４（５３）００４０
FAX：０５８４（５３）０４３０

海津市立吉里小学校

学級数：　７（特支１）
児童数：　８８名
岐阜県海津市海津町松木７７６－１
TEL：０５８４（５３）２７０３
FAX：０５８４（５３）２８３６

海津市立西江小学校

学級数：　６（特支０）
児童数：　８７名
岐阜県海津市海津町安田７２
TEL：０５８４（５４）５０５１
FAX：０５８４（５４）５０６４

海津市立大江小学校

学級数：　６（特支０）
児童数：　８７名
岐阜県海津市海津町古中島２０４
TEL：０５８４（５４）５２２２
FAX：０５８４（５４）５２７３

海津市立東江小学校

学級数：　６（特支０）
児童数：　７８名
岐阜県海津市海津町駒ヶ江１５９
TEL：０５８４（５３）０２１１
FAX：０５８４（５３）０４０４

「魅力ある学校づくり調査研究事業」とは・・・

家庭教育や地域社会の変化に伴い、学校や地域が直面する児童生徒の生徒指導上の諸問題は多様なものとなっています。こうした中、小学校及び中学校における不登校児童生徒の人数は、依然として高い水準で推移しており、これら児童生徒の将来の社会的自立にとって大きな問題となっています。

そこで、文部科学省国立教育政策研究所は、不登校やいじめの未然防止を推進するため、都道府県教育委員会及び指定都市教育委員会と連携し、児童生徒の豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成する「魅力ある学校づくり」についての調査研究事業を実施しています。

この事業では、年３回実施する児童生徒の意識調査をもとに、児童生徒が学校生活をどのように感じているかを捉えて、ＰＤＣＡサイクルの考え方で改善を図っていきます。そして、各地域におけるすぐれた取組を広く全国の学校や教育委員会等に周知することを趣旨としています。

平成２６年度より２年間、この事業の指定を受けた海津市日新中学校区の１中学校と５小学校は、学校がすべての児童生徒にとっての「心の居場所」となり、仲間との「絆づくりの場」となるよう、連携して様々な実践に取り組んでいます。

児童生徒

日新中学校区は、中学校１校と小学校５校から成り立っている。温和で素直な児童生徒が多く、地域行事や学校の伝統を大切にしていこうとする意識が強い。半面、自分で考えて行動しよう、仲間と話し合って向上しようという意識や、自ら学力を高めようとする意欲が十分とはいえない。多くの小学校から中学校に入学するため、中学校入学当初は、こうした実態が表面化することも多い。

【課題】

授業や特別活動等に主体的に取り組む姿が増えたが、学力や学習意欲の差が大きく、学級等への所属意識が低い児童生徒がいる。

【目標】

教科の授業や特別活動で主体的に取り組める場を設け、自ら学んだり自主的に活動したりして、互いによさを認め合い、高め合う児童生徒を育成する。

【取組】

分かる・できる授業、児童会及び生徒会活動、小・中連携及び小・小連携を通じ、協働して成し遂げる喜びや楽しさ、責任を果たす満足感を実感させる。

「心の居場所」と「絆づくりの場」となる魅力ある学校づくりに有効だったこと

「授業づくり」の実践

分かる・できる喜びを感じ、達成感や満足感を味わう

共通した学習活動の充実…「授業スタンダード」

・６つの小・中学校で次の事項の大切さを共有して指導にあたる。
- ○聞く、話すなどの基本的な学習姿勢
- ○見通しのある授業の進め方
- ○挙手をする際のハンドサイン
- ○小集団やペア交流等の話合いの仕方
- ○教科係の活動内容

「授業姿勢のスタンダード」
①聞く姿勢：話し手に体を向ける
②話す姿勢：聞き手が見える位置で話す
③挨拶：学習環境を整え気持ちの切り替え
④挙手：ハンドサインを使う
⑤授業前学習：教科係の進行と教師の支援

「授業展開のスタンダード」
①１０分以内の課題提示
②きちんと教える「前半学習」
③つまずきへの方針を立てる「学習状況点検」（中間チェック）
④全員が目標達成に向かう「後半学習」
⑤振り返り、次につなげる「まとめと評価」

＜実践例：大江小学校＞
「話し方・聞き方・話し合い方のスタンダード」を掲示。児童はカードを持ち、できたらシールを貼ることで意識向上を図っている。

＜実践例：高須小学校＞
「自分の考えを深め、広めるためのハンドサイン」を合言葉に、その意義や種類、使い方について全職員で再確認した。その後、各学年部の集会で、発達段階に合わせた活用の仕方を児童に説明した。

＜実践例：日新中学校＞
「分からない」を示す「グー」のハンドサインが多い時は、周囲の仲間と教え合う時間を設けるようにした。次第に、生徒から「グーが多いので教え合いの時間をください」と申し出るようになり、今では、「グー」挙手の生徒に主体的に班の仲間が教える姿が見られる。

「集団づくり」の実践

活動を通して認め合い、所属意識と自己有用感をもつ

認め合う活動の充実…「よさ見つけ」

- 帰りの会で日常的に実施、集会や行事の後に実施
- 班、学級、学年、他学年、全校で実施
- 直接相手に伝える、カードに書いて渡す、校内放送で伝える。
- 教室の掲示コーナー、全校の掲示コーナーの設置
- 「よさ見つけ」の視点ごとに色分けしたカードを使用する。
- 教師が全校等で認め、価値付け方の手本を示す。

＜実践例：吉里小学校＞
毎日、学級の帰りの会で、仲間のよさを直接伝え合う活動を続けている。さらに、他学年の仲間に向けた「よさ見つけカード」を校内にまとめて掲示したり、職員も「よさ見つけカード」を書いて渡したりして、学校ぐるみで認め合いの雰囲気を高めている。

異学年集団活動の充実…縦割り活動、児童会・生徒会活動

- 上級生に行事や交流会等の運営を任せる。
- 下級生には上級生のよい姿や思いに触れさせる。
- 児童会・生徒会では日常生活の向上を目指した活動を大切にする。
- それぞれの立場で粘り強く仲間に働きかける姿を認める。
- 自分たちで学校生活をつくるという意識をもたせる。

＜実践例：高須小学校＞
小６全員で縦割り遊びを運営している。楽しく安全な遊びを工夫し、下級生をリードすることで自己有用感を味わっている。

＜実践例：東江小学校＞
長縄大会では、練習後に縦割り班で振り返りの時間を設け、大会後にはペア学級のよさを伝え合う活動を行った。

「連携づくり」の実践

小学校から中学校へ、指導を積み上げる

共通理解の促進…授業交流

- 各校の研究授業を相互参観し、聞く、話すなどの児童生徒の姿や認め合う活動を学ぶ。

共通理解の促進…担当者会

- 各校の授業スタンダード等の状況を交流し、今後の取組について検討する。
- 各校の事業担当者で話し合った内容を各校の職員に伝え、共通理解を図る。
- 共通理解したことを、各校の実態に合わせて実践する。

意識調査の分析の充実…回答の理由を問う

- 意識調査において、回答に理由を記述させ、数値の裏にある児童生徒の意識を捉える。
- 回答の理由から、学年の傾向や問題点をつかみ、有効な指導方法を工夫する。

中１ギャップへの対応…中学校入学説明会の活用

- 中学校の入学説明会に小６の児童・保護者・職員が参加し、進学後を見通す。
- 中学校生活や中学生の姿を目標として、小６の児童や職員が取組を工夫する。

＜実践例：西江小学校・大江小学校＞
入学説明会以降、中学校入学に向けた目標をつくり、毎日の達成度を確認しながら指導した。
入学説明会で学んだ学習規律の大切さを全校に広め、自分たちの授業を高めて公開した。